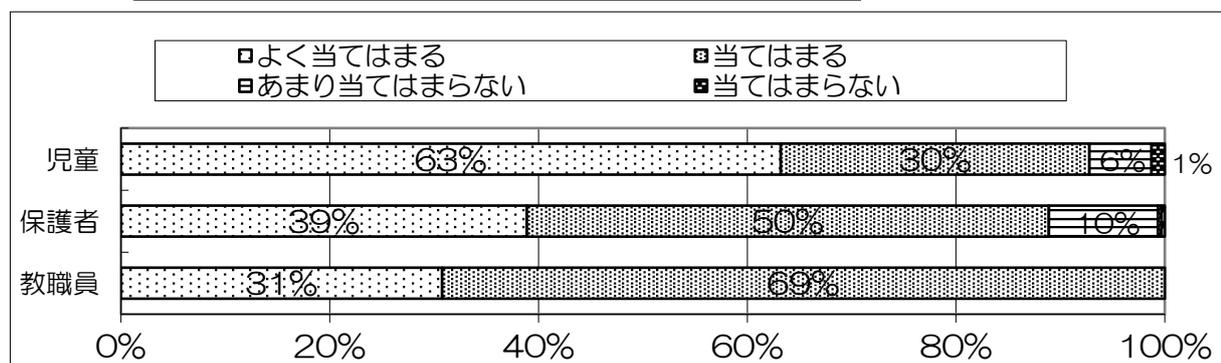


平成30年度 本校教育に関するアンケート結果について

栃木市立吹上小学校

問 1 児童は、楽しく学校に来ている。

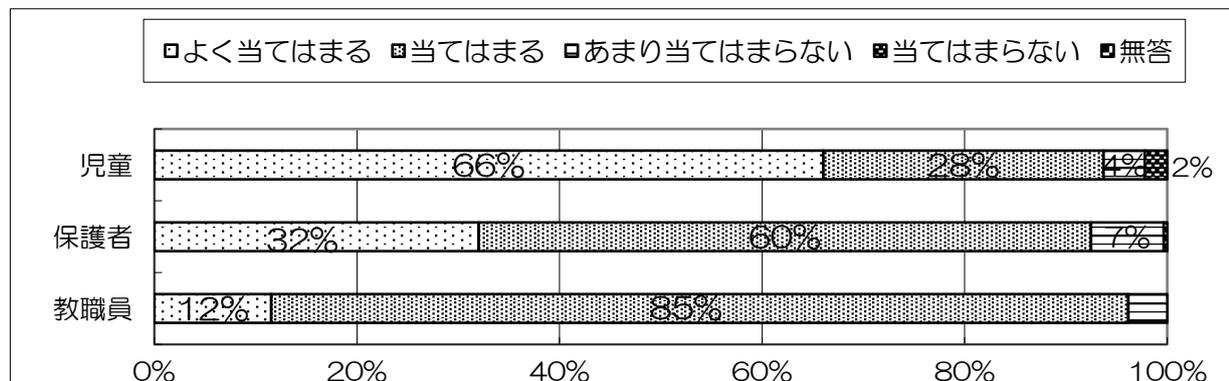
	よく当てはまる	当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない	無 答
児 童	63%	30%	6%	1%	0%
保 護 者	39%	50%	10%	0%	0%
教 職 員	31%	69%	0%	0%	0%



児童の93%が「よく当てはまる」「当てはまる」と答え、昨年度とほぼ同じ傾向だった。多くの児童は楽しく学校に来られているようである。ただ、保護者は、昨年度より2%減少し89%であった。年々少しずつ低下している。近年、登校を渋る児童が少しずつ増えている状況と関係があると思われる。若干名ではあるが、学校が楽しくないと感じている児童、とそれを心配する保護者がいることを忘れず、今まで以上に一人一人に目を向け、児童の心情を汲み取る努力をするとともに、誰もが居がいのある学級経営を行っていかねばならない。また、教育相談等をさらに充実させ、児童と保護者の不安や心配を取り除く努力をし、必要があれば外部機関との連携も図っていきたい。

問 2 児童は、思いやりの心をもって生活している。

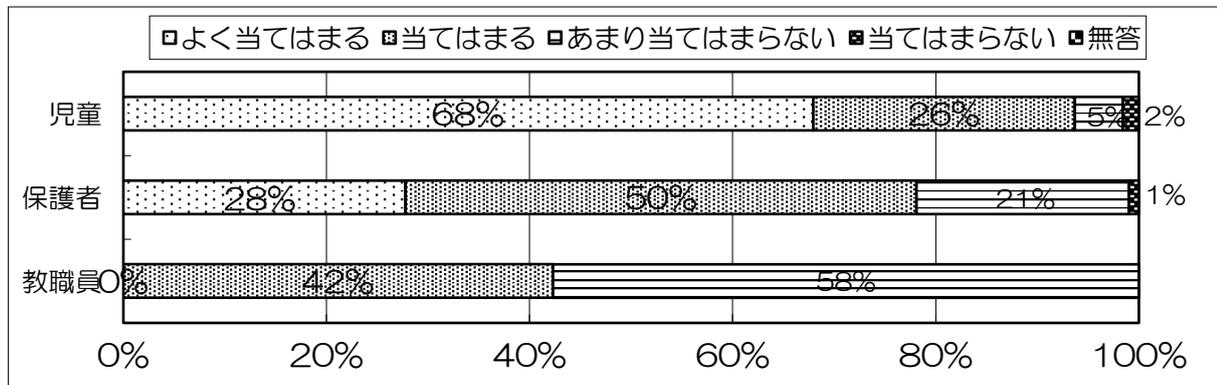
	よく当てはまる	当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない	無 答
児 童	66%	28%	4%	2%	0%
保 護 者	32%	60%	7%	0%	0%
教職員	12%	85%	4%	0%	0%



児童の94%・保護者の92%が、「よく当てはまる」「当てはまる」と答えており、昨年同様の望ましい結果となった。道徳科を要として、学校生活全般を通して協力や思いやりの指導を充実させるとともに、清掃や特別活動で異年齢集団活動等相手を思いやる気持ちを育てる活動を多く取り入れている成果と考えられる。今後も、児童相互の関わりを多くし、互いに思いやり助け合えるような場を設定していきたい。

問 3 児童は、学校や地域であいさつをしている。

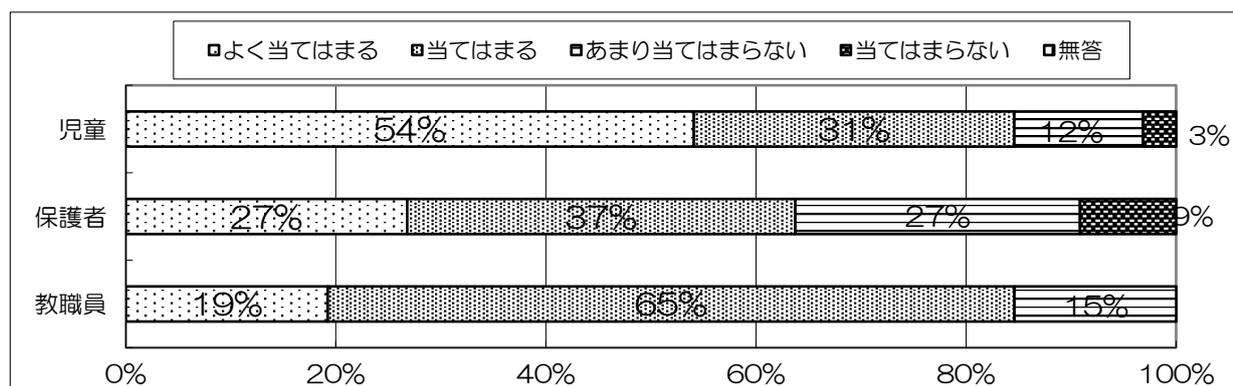
	よく当てはまる	当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない	無答
児童	68%	26%	5%	2%	0%
保護者	28%	50%	21%	1%	0%
教職員	0%	42%	58%	0%	0%



児童は昨年度とほぼ同じ94%が「あいさつをしている」と答えている。一方、「あいさつができていない」と答えた保護者は78%（昨年度より4%減）、教職員は42%（昨年度より18%減）であった。今年度も児童と保護者、教職員間で、意識のずれがかなり大きい。教職員は、指導をしながらもなかなか定着せず、まだまだであると感じており、保護者も、「教師がいないとしない。」「自分から大きな声でするのは難しい」と感じているようである。そんな状態を、児童ができていると感じていることが問題である。相手に伝わるよいあいさつについて児童に考えさせ、家庭の協力も仰ぎながら、自分から、進んであいさつができるよう、指導を工夫していきたい。

問 4 児童は、読書に親しんでいる。

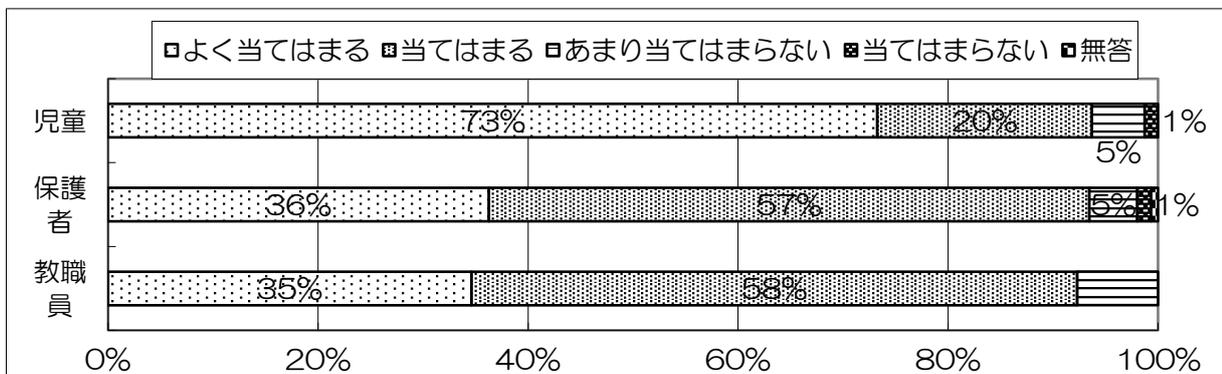
	よく当てはまる	当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない	無答
児童	54%	31%	12%	3%	0%
保護者	27%	37%	27%	9%	0%
教職員	19%	65%	15%	0%	0%



「よく当てはまる」「当てはまる」と答えた児童は、昨年を5%上回り85%となった。保護者は、64%と高くはないが、昨年度より6%増加している。年々少しずつ増加傾向にある。学校図書館での図書の貸出し数も昨年度より増加しており、学校での読書の推進や読み聞かせ、PTAよりによる図書の充実、うちどくの日の設定等の効果が現れてきていると考えられる。ただ、家庭では、保護者の満足するような主体的な読書までは至っていないことが伺える。また、個人差が大きいことも課題である。今後は、ボランティアの方の力をお借りし、多様な本に出会う機会を多く設定したり、日常の読書指導を充実させたりすると共に、うちどくの日のさらなる充実を図れるよう家庭に働きかけをしていきたい。

問 5 教師は、児童相互のトラブルや悩みなどに誠意をもって対応している

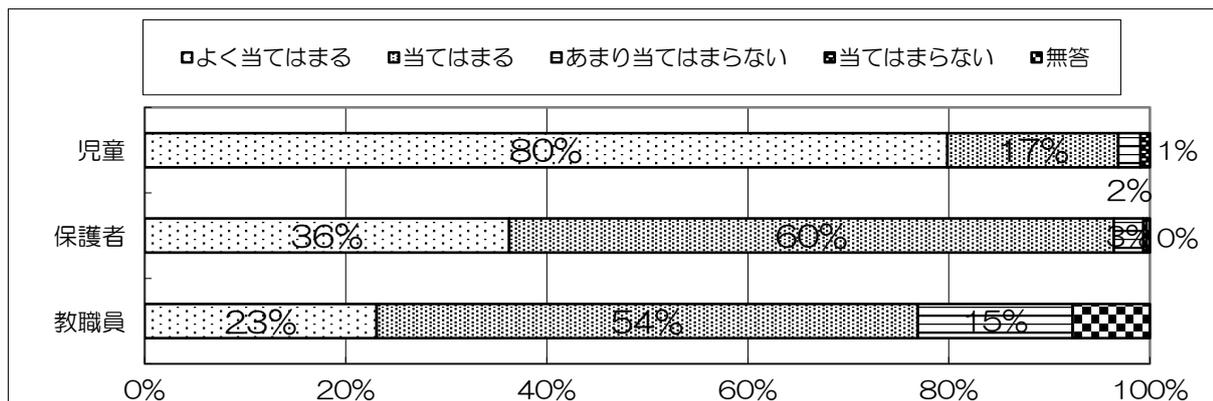
	よく当てはまる	当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない	無 答
児 童	73%	20%	5%	1%	0%
保 護 者	36%	57%	5%	1%	1%
教 職 員	35%	58%	8%	0%	0%



「よく当てはまる」「当てはまる」と答えた児童、保護者ともに93%で、昨年度とほぼ同じであった。児童の相談やトラブル等への教職員の対応に、児童・保護者共にほぼ満足していることが伺える。しかし、十分ではないと答えた児童・保護者もいることを忘れず、教職員は、児童の小さな変化を見逃さず、困っている児童・トラブルのある児童等から話を十分に聞き、児童の納得のできる対応を心掛けるとともに、今まで同様、組織として児童指導にあたっていきたい。そして、保護者に対しても、心情に寄り添い丁寧に説明を行っていくことを心掛けたい。

問 6 学校は、分かる授業を工夫し、学力の向上を図っている。

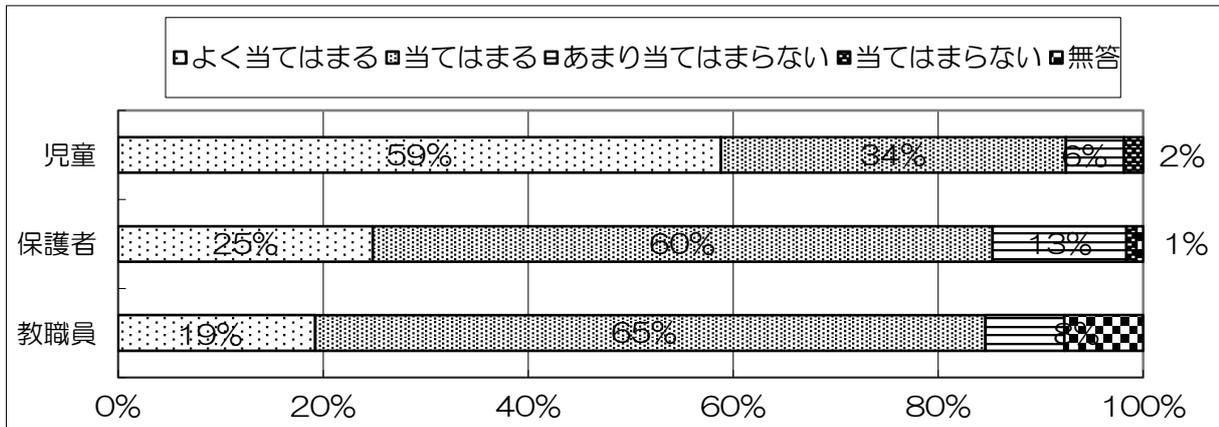
	よく当てはまる	当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない	無 答
児 童	80%	17%	2%	1%	0%
保 護 者	36%	60%	3%	0%	0%
教 職 員	23%	54%	15%	0%	8%



「よく当てはまる」「当てはまる」と答えた児童は97%、保護者は96%と昨年同様高い数値になっている。授業が分かると感じている児童が多く、保護者も、努力している担任や学校の姿勢を評価してくれていることが伺える。しかし、教育が大きく変わる時期でもあるため、新しい時代に求められる学力観に沿った、よりよい授業をめざし、教材研究を充実させ分かる授業の展開に努めていきたい。また、集団での学び合いを大切にするとともに、算数の少人数指導や朝のチャレンジタイムなどを工夫し、個に応じた学習指導の充実にも努め、学力の向上を図っていきたい。

問 7 児童は、授業中よく考え、進んで学習に取り組んでいる。

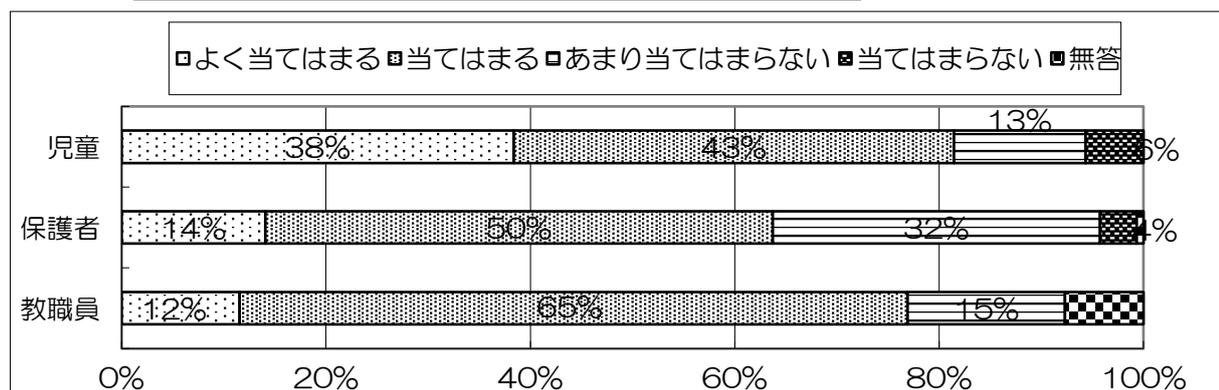
	よく当てはまる	当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない	無 答
児 童	59%	34%	6%	2%	0%
保 護 者	25%	60%	13%	1%	1%
教 職 員	19%	65%	8%	0%	8%



「よく当てはまる」「当てはまる」と答えた児童は昨年同様93%、保護者はやや減って85%であった。進んで学習に取り組んでいると考えている児童は多いが、保護者は、十分ではないと感じている方もいることが伺える。児童が進んで学習に取り組みたいと思えるような教材との出会いや、課題の設定の仕方等を工夫し、学習することの楽しさやできるようになった喜びを味わえるようにすることで、学習への意欲をさらに高められるようにしていきたい。

問 8 児童は、授業中自分の考えや意見を進んで伝え合っている。

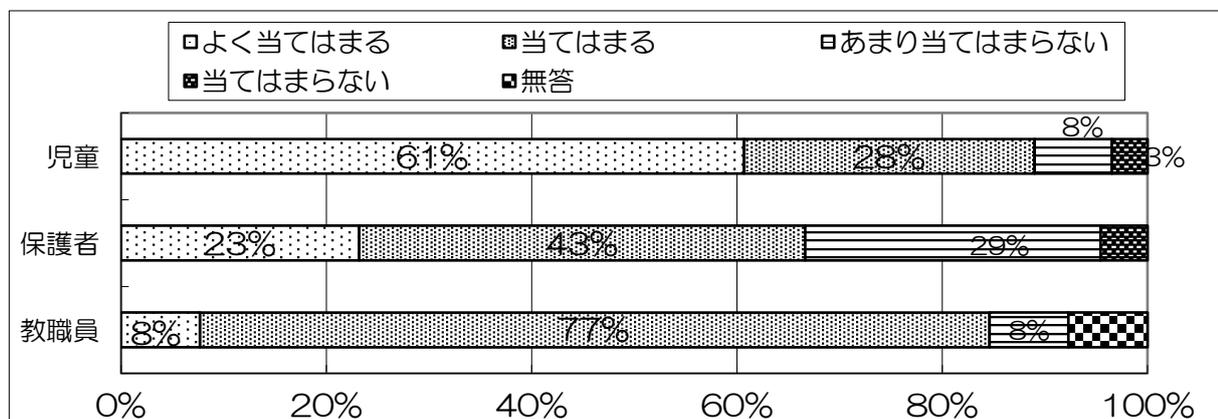
	よく当てはまる	当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない	無 答
児 童	38%	43%	13%	6%	0%
保 護 者	14%	50%	32%	4%	1%
教 職 員	12%	65%	15%	0%	8%



今年度より加わった設問であるが、「よく当てはまる」「当てはまる」と答えた児童は81%で、設問中最も低かった。保護者は64%で、こちらも2番目に低い結果であった。授業中自分の考えを伝え合うことが苦手で、できていないと感じている児童が多く、保護者も同じように感じていることが伺える。受け身の授業になりがちな実態がある。新学習指導要領で求められる「主体的・対話的で深い学び」の視点に立ち、教師が話合う必然性のある授業を工夫したり、ペアやグループ等の小集団での話し合いを取り入れたりしながら、自分の考えを進んで伝え、考えを深めていける児童を育てていきたい。

問 9 児童は、家庭学習の習慣が身についている。

	よく当てはまる	当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない	無 答
児 童	61%	28%	8%	3%	0%
保 護 者	23%	43%	29%	5%	0%
教 職 員	8%	77%	8%	0%	8%

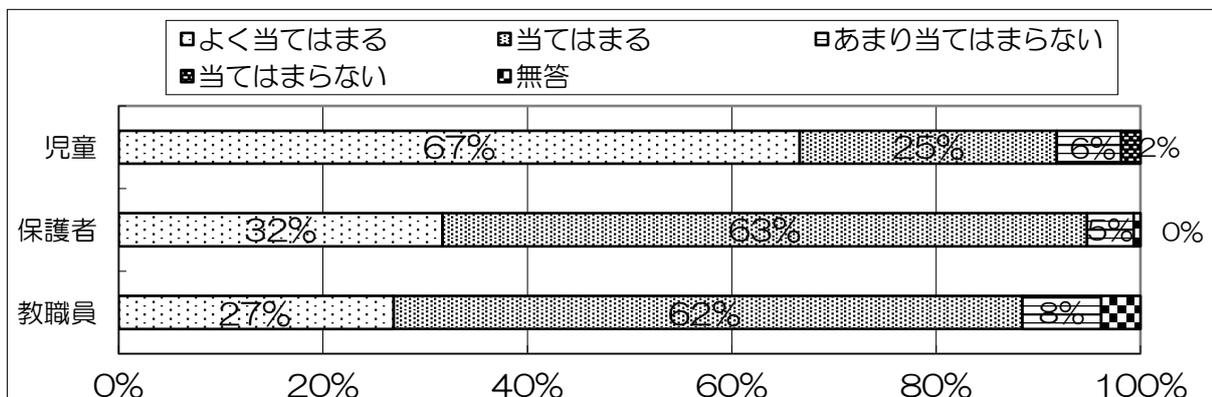


「よく当てはまる」と「当てはまる」を合わせた割合は、児童は89%で昨年同様であった。保護者は昨年より5%減り66%であった。また、教職員は85%で昨年度の68%から17%増加している。家庭学習をしていると感じている児童が多く、教職員も家庭学習が習慣化してきていると感じているが、保護者は、まだまだ十分ではないと考えている方が多いことが伺える。

今後は、「家庭学習のヒント集」などを十分活用し、自主学習の例を示したり、個に応じた助言や指導を行ったりするとともに、家庭と連携し、家庭学習強調週間を充実させていくことで、家庭学習が習慣化できるようにしていきたい。

問10 地域の教育力を活用して、ふるさとを愛する心を育てている。

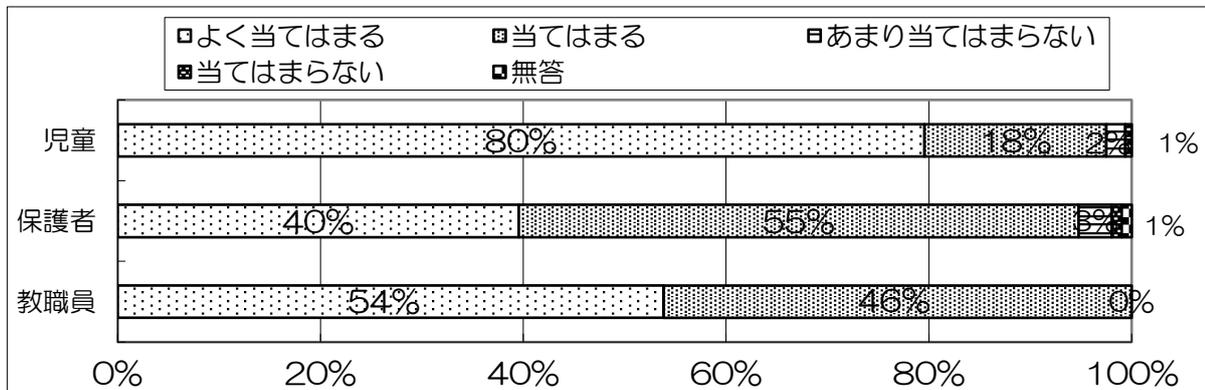
	よく当てはまる	当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない	無 答
児 童	67%	25%	6%	2%	0%
保 護 者	32%	63%	5%	0%	1%
教 職 員	27%	62%	8%	0%	4%



昨年度とほぼ同じ92%の児童と95%の保護者、89%の教職員が「よく当てはまる」「当てはまる」と答えている。生活科や総合的な学習・社会科等で、アシストネットや地域人材を活用した出前授業・ふるさと学習を積極的に取り入れた成果が表れ、児童に地域を愛する心が育っているものと考えられる。今後も、地域コーディネーターや公民館等との連携をさらに密にし、ねらいを明確にした出前授業等を取り入れることで、地域に誇りや愛着をもてる児童の育成を図っていきたい。

問1 1 児童は、交通ルールを守って安全に登下校している。

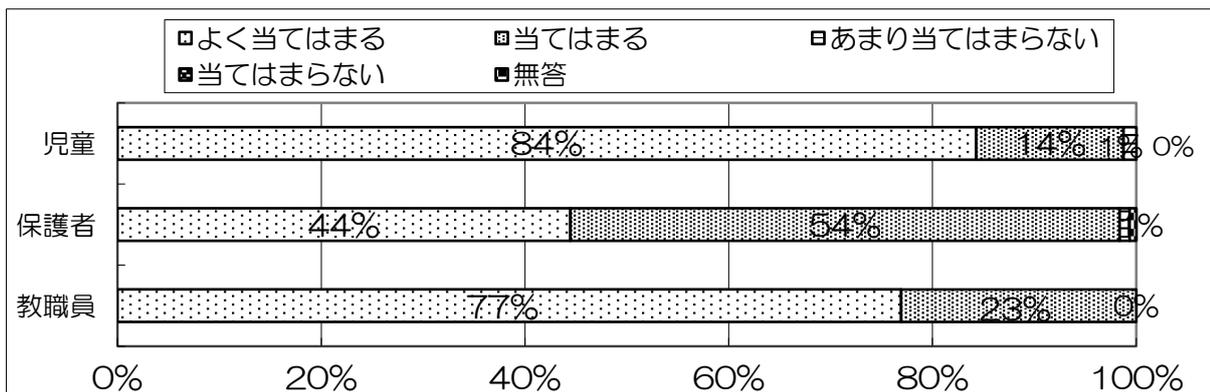
	よく当てはまる	当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない	無 答
児 童	80%	18%	2%	1%	0%
保 護 者	40%	55%	3%	1%	1%
教 職 員	54%	46%	0%	0%	0%



昨年同様児童の98%・昨年を上回る保護者95%、教職員100%が「よく当てはまる」「当てはまる」と答えている。大変よい結果であるが、保護者の意見の中には、通学路が狭く心配である。おしゃべりをしながらの下校が心配である。と言った声が上がっている。児童が危険を予測し、自分の命は自分たちで守るという意識をもって行動できるような指導を、繰り返し行っていく必要がある。そして、立哨ボランティアや安全パトロール隊等地域の方々との協力し、児童の安全を見守っていきたい。

問1 2 児童は、地震や竜巻などの災害について知り、自分たちの身を守るためにできることを考え、行動している。

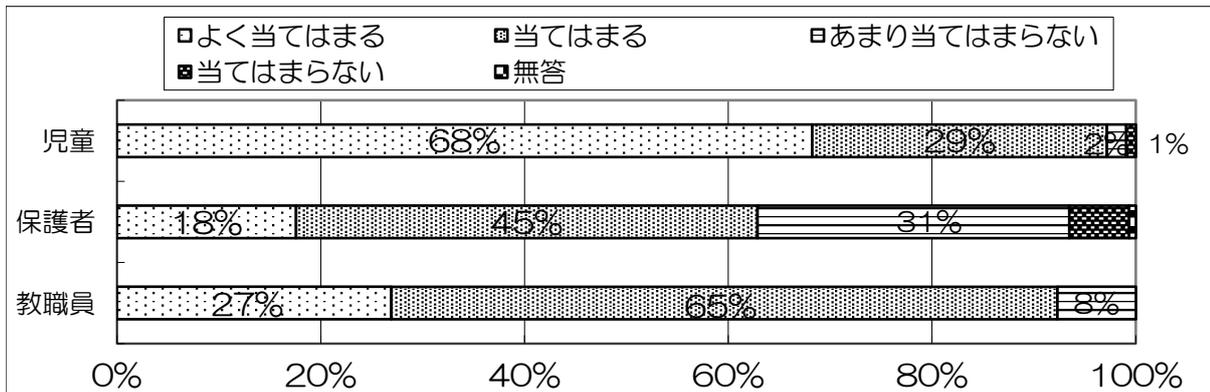
	よく当てはまる	当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない	無 答
児 童	84%	14%	1%	0%	0%
保 護 者	44%	54%	1%	0%	1%
教 職 員	77%	23%	0%	0%	0%



昨年同様、児童・保護者の98%、教職員の100%が「よく当てはまる」「当てはまる」と答え、設問中最もよい結果となった。そのなかでも、「よく当てはまる」と答えた保護者は10%、教職員は7%も増えていた。2年間の防災教育を通して、いろいろな災害時の身の守り方が児童に身に付いてきており、保護者や教職員もそれを実感してきていると考えられる。今後、家庭や地域との連携をさらに深めながら、様々な場面・状況で、自分の身を守る児童、家族や地域の一員として自分にできることを考えていけるような児童の育成に努めていきたい。

問13 児童は、清掃や係の仕事を進んでやっている。

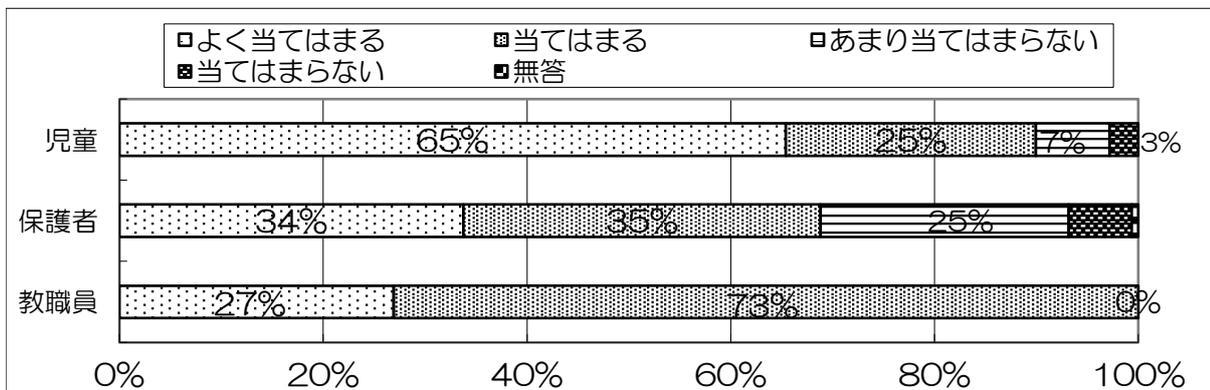
	よく当てはまる	当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない	無答
児童	68%	29%	2%	1%	0%
保護者	18%	45%	31%	6%	0%
教職員	27%	65%	8%	0%	0%



昨年度とほぼ同じ児童の97%、教職員の92%は「よく当てはまる」「当てはまる」と答えているが、保護者は、63%であった。この保護者の値は、昨年よりよくなっているが、設問中最も低い値であった。このことから、児童は学校では清掃や係活動に積極的に取り組んでいるが、家庭では、仕事に積極的ではない実態が伺える。懇談会の折に、家族の一員として、発達段階に応じた仕事を与え、家族の一員として家事をすること、働くことの大切さを感じさせてほしいことをお願いしてはいるが、決まった仕事がない児童もまだ多いようである。生活科や家庭科の時間等に、家庭での実践の場を作り、家族のために働くよさに気付かせていくとともに、PTAとさらに連携を図り、家庭で働く場を増やしていきたい。

問14 児童は、進んで運動し、体力づくりをしている。

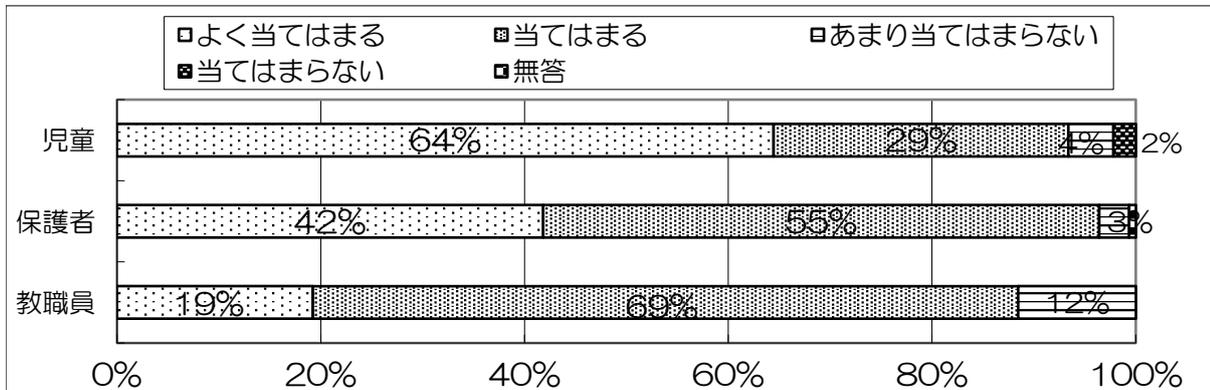
	よく当てはまる	当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない	無答
児童	65%	25%	7%	3%	0%
保護者	34%	35%	25%	6%	0%
教職員	27%	73%	0%	0%	0%



児童の90%が「よく当てはまる」「当てはまる」と答えていて、運動しているという意識は高いと考えられる。しかし、保護者は昨年同様69%に留まっている。児童と保護者の意識の差が大きい。家庭では、進んで運動する児童がいる反面、あまり運動を好まない児童も少なからず見られる2極化が進んでいることが伺える。能力・好み等個人差が大きいので、学校教育全体の中で、体を動かす楽しさを味わわせると共に、自分に合った目標をもたせ、継続して運動に取り組み体力の向上を図れるよう、指導を工夫していきたい。

問15 学校は、農園を活用して食育を推進している。

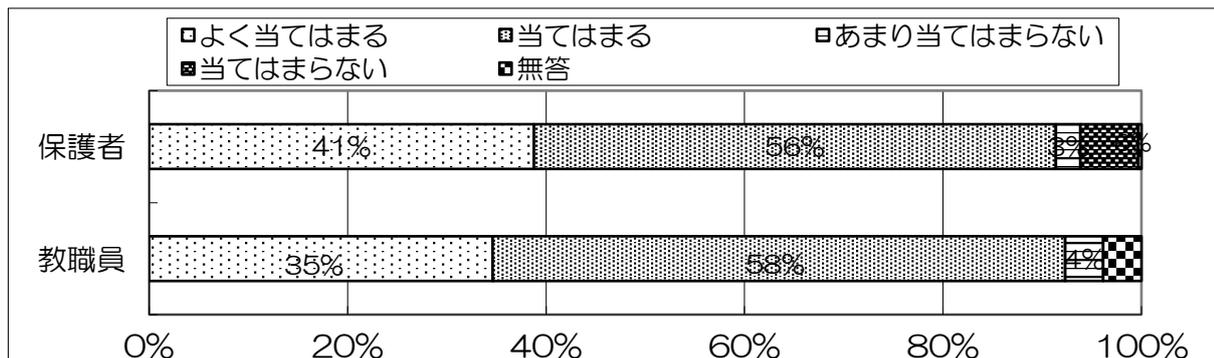
	よく当てはまる	当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない	無答
児童	64%	29%	4%	2%	1%
保護者	42%	55%	3%	0%	0%
教職員	19%	69%	12%	0%	0%



昨年同様、児童の93%、保護者の97%が「よく当てはまる」「当てはまる」と答えており、よい結果となった。生活科や総合的な学習で作物を育てたり、育てた野菜を給食等に生かしたりしてきたことが、児童の食育により影響を与えており、保護者にも伝わっていることが伺える。今後も、無理のない形で、全校生で学校農園の活用を図り、食育の推進に努めていきたい。

問16 学校は教育方針や取り組みが分かるように、各便りや懇談等で伝えている。

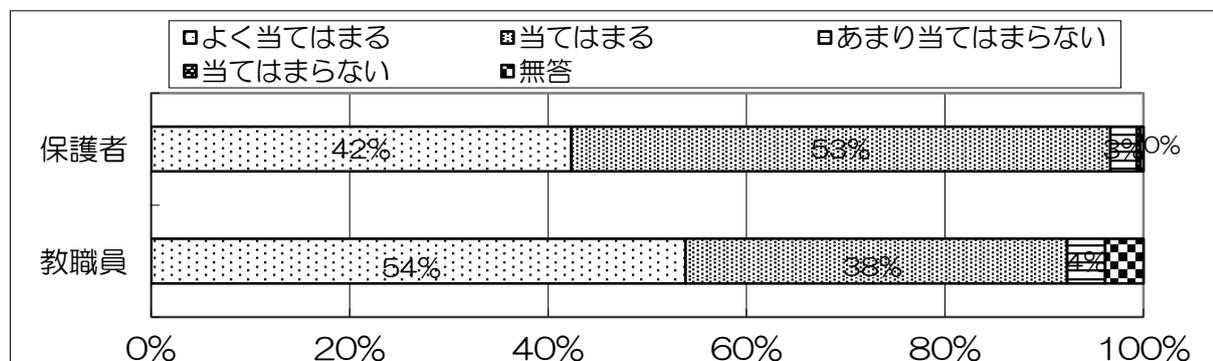
	よく当てはまる	当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない	無答
保護者	41%	56%	3%	0%	0%
教職員	35%	58%	4%	0%	4%



昨年同様、保護者の97%が「よく当てはまる」「当てはまる」と答えていた。学校だよりや学年だよりに加え、ホームページでの情報公開も積極的に進めてきており、閲覧数も伸びてきている。来年度も、たよりやホームページ等いろいろな方法で、学校の様々な教育活動の様子を分かりやすくお伝えし、より多くの方々に、本校の教育についての理解を深めていただけるようにしたい。ただ、教職員が直接保護者と話すことができる懇談会への参加は、昨年同様減少傾向にあるので、大勢の方に参加し意見交換していただけるような工夫を考えていきたい。

問17 学校行事やファミリー参観、授業参観などの時期や回数は適当である。

	よく当てはまる	当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない	無 答
保護者	42%	53%	5%	0%	0%
教職員	54%	38%	4%	0%	4%



昨年を上回る95%の保護者の方が「適当である」と答えている。今の行事や授業参観等の持ち方に、多くの方は満足していただいていると考えられる。ただ、共働きの保護者の方が増えている現状もあり、行事が一時期に集中するとたいへんであるという声もあったので、今の回数を基本として開催時期が集中しないように配慮し、より多くの方が参加しやすい形態等を工夫していきたい。